



平成29年度 学校アンケートの集計結果報告

日頃より、本校の教育活動について御理解と御支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

御協力いただきました「学校アンケート」の集計結果がまとまりましたので、御報告いたします。今回の結果を基に、来年度の教育活動をさらに充実させてまいります。

アンケートの結果表記について（数字）

A（よくあてはまる）B（あてはまる）C（あまりあてはまらない）D（あてはまらない）E（わからない・無回答）とし、百分率（％）で表示しています。AまたはBを肯定的な評価、CまたはDを否定的な評価としました。

保護者の回答(197名)、3年生から6年生の児童回答(433名) (保):保護者 (児):児童

学力の向上

	A	B	C	D	E
(保) 学習方法を様々に工夫し、思考力・判断力・表現力を育成する授業を行おうとしている。	35	52	3	0	10
(児) 授業の中で、「なんでだろう?」と友達と一緒に考え、発表する勉強が、楽しい。	24	46	20	5	5
(保) 朝学習の新設・授業時間の確保・算数習熟度別学習などの工夫により、基礎・基本の徹底を図ろうとしている。	30	59	2	0	9
(児) 算数の時間に「習熟度」で教えてもらうので、勉強が分かりやすい。	46	29	11	3	11
(児) 文章を読む力や漢字を書く力や計算をする力が付いている。	24	40	18	8	10
(保) 子供のよいところを見付け、子供の励みになる指導を心掛け、学習効果を上げようとしている。	36	50	5	1	8
(保) 宿題を出すなどして、子供が主体的に家庭学習する態度を育てようとしている。	38	52	8	1	1
(児) 宿題を忘れずに行い、家で毎日、(10×学年+10分)の時間、勉強するようにしている。	32	30	19	12	7
(児) 100冊読書チャレンジに頑張っており取り組んでいる。	27	27	28	13	5

昨年度に引き続き保護者の皆様からは「思考力」・「判断力」・「表現力」を育成する学習指導方法に対して肯定的な評価をいただいています。また、基礎・基本の能力を育てる学習環境の設定や、習熟度別指導の学習についても御理解いただける保護者が増えてきました。しかしながら、児童の実態としては2割以上の児童が、基礎学力が「身に付いていない」と感じています。今後は、1単位時間の学習のめあてをしっかりと押さえ、何が分かったか、どのように考えたかなど学びの過程がしっかりと押さえられる授業の展開に努力してまいります。学校公開についての感想として、児童主体の授業や表現する児童の取組を肯定的に捉えてくださっている御意見を多く頂きました。さらに引き続き学校全体で学びを意識する取組を進めてまいります。

新学習指導要領に示されている「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を育成する指導の充実を図ってまいります。さらに、家庭学習においては、基礎・基本の学習だけでなく、自分で学びを考え実践する自己学習（自学習）の取組を充実させたいと思います。今年度は、夏休みに全校で自己学習を意識した課題に取り組みました。保護者の方の多くの御協力をいただいたお陰で様々な応募作品が入賞し、全校で友達のがんばりを共有することができました。

100冊チャレンジ読書に関しては、読書することへの抵抗感が減り、選書に時間を掛けずに取り組める児童や年度末に向け100冊を目指して読書に取り組む児童が増え、関町図書館や武蔵野市の図書館利用者数も着実に伸びています。また、今年度もきらきら文庫さんを始め、多くの読書ボランティアの皆様によ

るすてきな読み語りにより、児童に読書の楽しさを伝えていただきました。ありがとうございました。

生活指導・規範意識・思いやりの心

	A	B	C	D	E
(保) 生活指導の徹底を図り、学校のきまりを守り、挨拶ができ、けじめのある子供を育てようとしている。	3 6	5 6	5	1	2
(児) 学校のきまりを守り、掃除をしっかりと行い、休み時間が終わったらすぐに教室に帰るようにしている。	5 0	3 4	1 0	2	4
(児) いろいろなところでありがとうやおはようございます、こんにちは、さようならなどをすすんで言える。	4 9	3 6	1 0	3	2
(児) 今、いやなことを言われたり、物をかくされたり、暴力をふるわれたりするなどのいじめを受けている。	4	6	6	7 6	8
(児) 人がいやがる言葉を使ったり、友達を呼び捨てにしない方だ。	2 6	4 1	1 7	8	8
(保) 道徳の時間を通して、生命を尊重する心や思いやりの気持ちをもち心豊かな子供を育成しようとしている。	3 0	5 4	4	0	1 2
(保) 子供と共に、常に厳格な態度でいじめを許さず、暴力のない学校づくりを実現しようとしている。	2 5	5 5	4	2	1 4
(児) 勉強をしたり、遊んだりできる学校が楽しい。	5 7	2 5	1 1	3	4

「学校のきまりを守れている」と思っている児童の割合は比較的高いです。関町小スタンダードが定着されてきている結果だと思います。また、学校全体の取組を継続する中で、自然に挨拶できる児童が増えてきました。校内での挨拶は定着してきていますが、「すすんで、誰にでも」という点から考えるとまだまだ合格点には到達していません。挨拶運動だけでなく、日常的に教職員の方から挨拶をし、来年度も継続した指導により、全校で気持ちの良い挨拶が交わされる学校づくりを目指していきます。

「関町小スタンダード」は、全てのきまりを盛り込んでおりません。規範意識については、道徳の時間や学級指導、全校朝会などの折りに触れ、意識させていくことに引き続き努めてまいります。言葉遣いへの意識はだいぶ向上してきました。

年3回のふれあい月間のほか、毎月のふれあいアンケートによる調査や教員が休み時間などに児童と遊ぶことで、信頼関係を築き、友達関係や人間関係の把握に努めることで、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に心掛けています。いやがる言葉を使ったり、呼び捨てにしたりする項目では「守れていない」という児童が昨年度より減るなど、学校生活の中で互いに意識できることが増えています。学習時間中での友達の呼び方については、かなり意識されてきていますが、引き続き互いに声を掛け、人間関係を確かなものにしたいと考えています。そのためには、指導する教職員の言語環境も引き続き整えていきます。今年度は、区がいじめ防止の取組（いじめ防止シンボルマーク募集）に全校で取り組み、各学級で道徳の時間などを中心に考えました。教職員も含めてお互いの人権について大事にしていく意識を常にもてるように引き続き指導にあたっていきます。

学校が楽しいと8割の児童が感じている反面、2割の子が否定的な回答となりました。つらいことがあったときや、克服しなければならなかったときに、自分の力で解決して、成長できる力や自己肯定感を育てる指導を心掛け、学校が楽しいところであると実感できる学校づくりを目指します。

開かれた学校について

	A	B	C	D	E
(保) 幼稚園・保育園との連携教育や中学校との一貫教育を進め、様々なギャップを埋め、円滑な接続を図ろうとしている。	1 3	4 9	9	2	2 7
(保) 連絡帳・電話・個人面談等で積極的に保護者との連携を密にして、信頼関係を深めようとしている。	3 3	5 3	8	3	3
(保) 関町小通信、ホームページ、メール配信、学年・学級通信などを活用して、積極的に情報を発信しようとしている。	4 2	4 9	6	1	2

近隣保育園・幼稚園との交流の取組は、園児が本校の運動会・学芸会などの行事に参加するだけでなく、3学期に実施している1年生プレ体験など、園児・児童が触れ合う活動を通して互いに相手を意識し成長する場面が見られました。今年度は、夏季休業日を活用して教員の保育園参観と研修会を実施し、保育園

での保育の実態と小学校の接続の在り方について研修しました。

中学校との一貫教育については、中学校の教員による出前授業や部活動体験を行うたびに、6年生児童の中に少しずつ中学校生活を意識する気持ちが育ちました。教職員間の研修の一環として中学校の教員が本校の授業を参観し、その後協議する校区別協議会を開催しました。小中一貫教育実践校としてさらに一貫教育の取組の充実と情報発信に努め、御理解いただけるように努めていきます。

関町小通信やメール配信など、学校の情報発信に努めていますが、日常のお子さんのこと、確認事項などについてはまだまだ不十分のところがございます。学校・保護者・地域の方の御理解と信頼関係を構築できるようにさらに努力してまいります。

皆様からの御意見

項目への回答以外自由記述欄に保護者の皆様から御意見や御要望をたくさんいただきました。紙面の都合上、主に全体に関わるものを紹介します。また、同様の意見は一つにまとめ、長い記述は趣旨を変えないように短くまとめさせていただきました。御了承ください。

1 学習について

生活カード、小テストや居残りなど子供たちが一人だけではできないことを続ける工夫が細かくされていると感じます。

宿題の量が減っています。少ないと感じ、30分に足りない分は教材プリントを使ってやるようにしています。宿題の量が10分×学年+10分では足りないと思います。日記の宿題も減っています。

学芸会などの行事がある前後の日くらいは宿題がなくてもよいのではないのでしょうか。

約3割の児童が中学受験を志願していると認識しておりますが、家庭学習(10分×学年+10分)に幅を持たせてあげることが可能でしょうか。

算数の習熟度別の指導は、一番下のクラスに入れられてしまうと、周りの子に落ち着きのない子が多く、集中できず、うちの子にはデメリットしかありません。

算数が習熟度別指導になり、指導体制が厚くなったと思いますが、つまずきが見られます。しかし、なかなか気付いてもらえていないようなので、そういったところへのフォローの場があれば是非、参加したいです。

宿題を細かく見て、子供のやる気を引き出す指導をしてくださり感謝しています。

学期の初め頃に実施した算数のテストの返却が11月中旬ごろやっといくつか返却されている様子です。

1学期もそうでした。せっかく習熟度別にしていても、やったことに対するテスト結果が見えぬ状態で次の単元の授業を行うのは、どこができて、どこがダメだったかわからないまま先に進んでつじつまが合わない気がします。また、習熟度別の名称がついたとのことですが、先生により、このクラスがどのクラスなのか言う先生と言わない先生もいるようで、未だに子供がどのくらいの理解度かわかりません。1年生のうちから5時間授業があまりにも多く子供はかなり疲労しています。なにか工夫できないものかなと素朴に疑問に思います。

【学校より】

- 今年度も関町小通信などでお伝えしておりますが、家庭学習、宿題の質を学年の発達段階を考慮して高め、かつ新学習指導要領を意識して従来の課題から少しずつ、自分で学べる学習を取り入れていくようにしています。もちろんどの学年でも基礎・基本の学習の定着が必要ですが、そこから自分で学びたいことにアンテナを立てて学ぶ学び方を模索する家庭学習が重要と考えています。はじめのうちは、担任や担当からヒントを提示して、選択したり考えさせたりすることが重要になります。また、短時間に課題を終えられるお子さんばかりではありませんので、個に応じた対応も必要な場面があります。課題は概ね、学年で合わせて出しております。
- 習熟度別指導のクラスについては、名称を統一してお子さんにもお伝えすることになっております。周知できていなかったところは、改善してまいります。単元による得意・不得意やお子さんに応じた指導が人数の関係で十分にできていないこともあるかと思っております。お気付きの点は、遠慮なくお知らせくだ

さい。

- ・標準時数確保のために授業時間を減らすことはできません。午前中に5時間授業にするなどの措置により5時間の日を6時間にしている学校も増えていますが、本校では、来年度、余剰時数と指導方法の工夫などの工夫により時間数を確保してまいります。
- ・新学習指導要領が公示されました。来年度・再来年度は移行措置期間となりますが、その方向性・学び方・ねらいなどを学習の中に組み入れて指導してまいります。
- ・習熟度別指導のクラス分けは、単元が始まる前のプレテストなどを基にして実施しています。

2 生活について

「いじめアンケート」を毎月実施していただいていることに、本当に感謝しております。毎月、確認していただくことで、些細なことでもすぐに解決して、ことが大きくなる前にすっきり解決できるのだと思います。ただ、欲を言えば、もしも、アンケートに何か記載があった場合は、面談のときまで知らせないのではなく、そのときにお知らせいただきたいです。先生方がお忙しければそのアンケートのコピーで「こんなことありました」等のレベルでもかまいません。同じ情報を共有していればもっと安心して学校生活の維持ができると思います。

いつもありがとうございます。小学校での様子は子どもの言葉からでの情報だけでは分からない部分も多いので教えていただけて助かっています。

【学校より】

- ・毎月のアンケートは、あくまで一手段として、子供たちをしっかりと見つめるきっかけにしたいと考えています。アンケートに記載をいやがる児童も高学年になるにつれて増えていきます。いじめを認めない・許さないという感覚を身に付けさせ、居心地のよい学級・集団づくり・学校を目指して引き続き努力してまいります。また、子供との信頼関係を気付くとともに、子供の困り感などをしっかり受け止められるように努めてまいります。
- ・指導上気になったことはできるだけ早いうちに御家庭にお知らせし、御家庭での見守りや学級担任との連携などの御協力を頂くことが必要と考えております。

3 開かれた学校について

先日の台風の時に学校からのメールの中に「連絡網にて保護者に連絡するように」との文言が添えられていましたがメールを利用していないごく一部の保護者のために利用することに違和感がありました。また、どのメールが連絡網のトリガーとなるのか、ばらばらの判断が行われていました。連絡網を利用する場合、多大な労力が必要となります。ルールを明示していただきますようお願いいたします。

担任の先生に関しては、数字を付けるなら「4」ばかりです。学校全体としては、認識不足のためか、「3」が総合的な数字となります。

全てを見ているのではないので断定できませんが、4と書いている部分は、そうかな、と思っています。9月は多忙かと思いますが、やはり、1学期毎に1回は個人面談があった方がいいかなとは思っています。第二土曜日の学校公開を減らしてほしいです。

【学校より】

- ・練馬区学校連絡メールに今年度は96パーセントの御家庭に登録していただきました。年度末をもって、配信登録は一斉削除となります。登録手続きについては、4月に御案内をさせていただきますので、新年度新たに手続きをお願いいたします。すでに御案内させていただいておりますが、来年度から電話による緊急連絡網を廃止させていただきます。学校連絡メールの登録をされない場合には、学級の保護者の方とのつながりで情報が得られるようお願いいたします。また、可能な範囲で学校ホームページへの掲載などの工夫をしております。
- ・第二土曜日の学校公開は練馬区内の全公立小中学校で実施しているものです。
- ・1学期の教育相談会や2学期の個人面談以外にも、御相談やお話の機会が必要なときは、その都度時期

を問わず、担任や担当まで御連絡をいただければと思います。

4 教育環境・教職員について

先生に余裕がなさそうです。

教職員も人です。なので、それぞれ個々に指導の方法があってよいと思います。ですが、その「個人差」がクラスまたは、学年で見受けられると、保護者は戸惑ってしまいます。

担任の先生が、よかったです。子供の成長をととても感じています。

本当に先生方は良くしてくださると思っています。お休みもなく、残務も多く、お体をこわさないか心配です。私自身も完璧な子育てなどできないのですが、それでもはっきりと学校生活・子供に関心のある保護者とそうでない保護者の差を感じます。大人がしっかりしないと...と日々感じています。

初めて子供を学校に通わせたので不安も大きかったのですが、担任の先生をはじめ、職員の方々が温かく御指導くださっているので、子どもも学校が楽しいと言っています。

先生方にはお忙しい中、子供の教育に関する様々な働きかけを行っていただいていると思います。

子供達のためにいつも一生懸命やっていただいております。

子供から感じる毎日の学校生活、運動会や学芸会などの行事など全てにおいて、関町小学校の先生方の御指導の熱心さが伝わってきます。こころより感謝申し上げます。

2学期に入り、運動会、学芸会がある中、いろいろと御指導いただき、どちらも素晴らしい競技・演技が見られて感謝しております。

ICTの面ではパソコンの授業を見学しましたが、児童一人1台の環境があること、授業サポート員をもう少し手厚くつけられる人的環境があることなど、課題もあるように思いました。専門的指導者がいるとよさそうです。

学芸会では、総合的な学習の一端が見られてよかったです。

【学校より】

- ・保護者の方をはじめ、今年度もいろいろな外部人材をお招きして多くの教育活動を行いました。PCを用いて検索したり、資料をまとめたりするなどの学習に加え、今後プログラミング学習や日常授業の学習支援など、人材バンクの活用を広げ、児童の学びをさらに深めてまいります。
- ・学校支援コーディネーターや学年・担当から多岐にわたるお願いをしております。お子様の学年に限らず、無理のない範囲で、お力添いをいただけますように御協力お願いいたします。

[教員による学校評価]

4・・・よくあてはまる 3・・・あてはまる 2・・・あまりあてはまらない 1・・・あてはまらない
数値は平均値

校長の学校経営目標の実現に向けた 今年度の具体的方策			取組指数		成果指数	
			中間	期末	中間	期末
学力の 向上	1	1 内容・方法・場所・留意点等が記載された週案を作成する。	3.21	3.36	3.11	3.21
	2	2 朝学習・朝読書・家庭学習の充実により、漢字力・計算力・読解力等の基礎・基本の学力と読書力を伸張する。	3.11	3.14	2.85	3.11

	3	3 学習過程(習得・活用・探究)を常に念頭に置いた学習や協同学習を積極的に展開し、子供の思考力を伸長する。	3.04	3.18	2.81	3.07
	4	4 問題の解決や探究活動につながる学習や、「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開し、子供の判断力を伸長する。	2.86	3.14	2.56	2.79
	5	5 全教科・領域の中で言語活動を充実させ、特に自分の考えを相手に分かりやすく伝える学習を展開し、子供の表現力を伸長する。	3.07	3.29	2.78	2.96
	6	6 子供のよい所や行動を具体的に記録するとともに、ルーブリック評価・パフォーマンス評価により、指導と評価の一体化を図る。	2.82	2.93	2.59	2.64
	7	7 質の高い家庭学習(10分×学年+10分)の課題を課し、自主学習の態度を身に付けさせ、学習の定着・習熟を図る。	3.07	3.32	2.85	2.96
	8	8 学校生活のベースとなる「関小スタンダード」を基に、子供・保護者とともに最低限のきまりを確認し合い、組織的な生活指導を行う。	3.14	3.18	2.81	3.04
	9	9 30年度からの「特別の教科道徳」の完全実施を先取り、「評価」を意識し、「考え、議論する道徳」の実践を行う。	2.96	2.93	2.70	2.68
豊かな人間性の育成	10	10 いじめ・自殺防止に関わる研修と、具体的な指導・挨拶運動週間等の取組を通して、基本的な生活習慣の確立を目指す。	3.07	3.25	2.89	2.96
	11	11 「廊下は歩く宣言」等の具体的な指導を通して、自ら自他の安全を配慮した行動がとれる子供を育成する。	2.89	3.18	2.52	2.71
	12	12 80%以上の子供が、廊下・階段等の校舎内で「こんにちは」の挨拶をすすんで行えるようにする。	2.86	3.18	2.19	2.68
	13	13 教師が児童を「さん」「くん」付けで呼ぶなどの取組を通して、人権感覚を磨き、自分とともに他の人を大切にすることを育成する。	3.25	3.32	2.85	2.93

校長の学校経営目標の実現に向けた 今年度の具体的方策			取組指数		成果指数	
			中間	期末	中間	期末
教育課題対応	14	14 実践校として、9年間を見通した系統性のある取組の実践を通して、心の指導・学習指導・生活指導の基盤をさらに厚くする。	2.79	3.04	2.67	2.64
	15	15 職員研修や異校種・異学年交流を通して幼・保との連携教育を進めるとともに、学童クラブ・ねりっこクラブなどの連携を図る。	2.79	2.93	2.74	2.61
	16	16 作成した指導計画に改善を加えながら、「4つのテーマと4つのアクション」の取組を実践し、オリ・パラ教育をさらに一歩進める。	2.61	2.82	2.26	2.46

	17	17 "一人100冊読書"では、50%の児童の達成を目指すとともに、学校図書館機能を活用した学習や活動を意図的に展開する。	3.32	3.25	3.04	3.14
	18	18 学級担任・かたくり学級担任・特支コーディネーター・SC 等との連携と校内委員会の充実により、個別支援計画・学校生活支援シート等を基にした個に応じた指導を推進する。	3.11	3.18	2.89	2.93
教育活動の基盤整備	19	19 日常に生きる道徳授業の研究を実践的に行うとともに、月曜日のプチ OJT 時間を活用した研修等により教師力を向上させる。	3.18	3.07	3.00	2.96
	20	20 悉皆研修以外の研修・研究会に、最低年2回は参加する。	3.11	3.29	3.04	3.14
	21	21 「地震と安全」「3.11を忘れない」「防災ノート」等の活用や体験的な学習等により、具体的で実践的な防災教育を実施する。	2.89	2.96	2.78	2.75
	22	22 学級・学年・専科・学校だより、HP(最低月1回更新)により、積極的に情報発信を行い、学校・学年・学級のよさを知らせる。	2.96	3.11	2.81	2.75
	23	23 学校・地域連携事業等の展開を通して、保護者や地域・外部人材を活用した教育を全学年でダイナミックに展開する。	2.86	2.93	2.74	2.75
	24	24 新3学期制の趣旨を基に、全校で長期休業日を活用した自由研究・自由制作・ポスター作り・読書感想文等に取り組み、児童の学びに向かう力と活用力・探究力を向上させる。	3.29	3.29	3.00	3.07

3月1日(木)開催の学校関係者評価・評議員会の記録より(抜粋)

(3月1日(木)に開催した学校関係者評価委員会で頂戴した御意見の概要を載せさせていただきました)

何をするにも元気があるということは、素晴らしいことである。ただ日常生活の中で、いろいろなことに対して折り合いを付けることも大切であり、学んでほしい。

教員の共通理解、まとめ、組織が感じられ、先生方が同じ方向を向いて指導にあたっている。また、新たな取組や変化についていろいろな切り口で情報を発信するなど、教育活動の変更や変化への説明が行き届いている。

低学年から体操着のたたみ方や靴の揃え方など、細かな指導がなされている。

子供の些細なことでも気軽に話せる人間関係が保護者と教員、保護者同士で構築され、情報交換がいつでも必要と感じたときにできることは大切である。

読書習慣は、活字離れが進む今だからこそ、貴重である。しばらく本から離れていても大人になってから自然に本を読む素地が養われる。

読書習慣が身に付いている子がいる反面、なかなか時間が取れない子がいる。

低学年から苗字で友達の名前を呼んでいる。「さん」付けの取組であることが理解できた。

学力調査・体力調査の結果を見て、学校が努力してきたことが結果につながっていると感じた。

先日行われた二分の一成人式では、子供が自分の10年間を振り返り、成長を感じることができた。保護者も新たな振り返りができた。

二分の一成人式は、感慨深いものがあった。

地域連携事業の取組について：未来塾2年目になり、子供も落ち着いて取り組めている。保護者も協力的である。月1回が原則の実施であるため、学習の中で多く見られるつまずきについて算数主任から情報を得て、課題を選択させて取り組ませている。子供たちは熱心に取り組む中で、分からないことや課題を

進める意欲が高まり、挙手することも多くなるなど、有意義に1時間の学習に取り組んでいる。指導スタッフも、子供たちの指導に熱心にあたっている。

人材活用では、人材バンクの更新をはじめ、石神井西中学校区内の小学校が連携して人材活用ができるように互いに人材情報を共有することで、成果が出てきている。

来年度も継続して学校の地域行事への協力がほしい。地域の図書館で関町小の子供たちのマナーがよいと言われている。

雪かきをしていたところ「ありがとうございます」と感謝の気持ちを何人もの児童に言われた。

地域の会議で自尊感情の低い子が増えていることも話題になった。

小学校で学力向上を重点化し取り組んできた児童を中学校が責任をもって伸ばしていく必要がある。

中学校では93%の児童が部活動に参加するため、放課後の個人が使える時間が限定されるため、宿題をあまり出さず、自主学習が中心になっている。学ぶ生徒と学ばない生徒の個人差が激しい。放課後の関町図書館の学習室の利用や放課後未来塾の運用を進めていく。継続することでの成果を期待し、毎朝10分間に朝読書を実施し、ビブリオバトルなどの活動により、愛読書を意識させる取組をしている。

投力・持久力の体力向上の取組は、中学校でも連携して取り組んできたため成果が上がってきている。

中学校では近隣3校を含め複数小学校からの入学となり、集団が大きくなるために、適応が難しい。人間関係でつまずきを感じる生徒が中学1年生に多く出現する。「7年生」の意識を生徒にもたせるとともに、問題行動に対しては教師に早期発見の意識をもたせるとともに、卒業小学校との連携によって対応し、充実した中学校生活を送れるようにしている。

貴重な御意見を多数いただきありがとうございました。十分に検討させていただきながら、皆さんのお考えを反映させていく方向で考え、できるところから改善に努め、30年度の教育活動に生かしてまいります。

平成29年度学校評議員・学校関係者評価委員

松丸 晴美 様	練馬区立石神井西中学校長
須合 勝博 様	関町小学校学校応援団長
大橋 徹 様	関町小学校同窓会長
増田 寛治 様	関町北3丁目町会代表
高辻 高嶺 様	南北町会役員
新藤 未紀 様	青少年委員
岩谷 恵美 様	青少年育成関地区委員会副会長
高山 裕子 様	関町小学校学校支援コーディネータ
夏山 美恵子 様	関町小学校前PTA代表
石井 由梨 様	関町小学校PTA代表